

地域課題解決に協働を

「学生には『書を持って、町に出よう』と伝えたい」。机上の学びだけでなく、地域

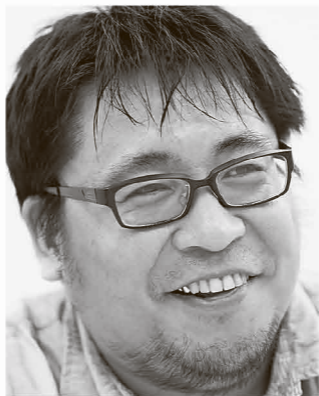
県立大学の挑戦

「新任教員」紹介⑨

PR

に出て、大学の外の人たちと関係を持ちながら学ぶ。背景には「若者の流出や空き

地域創造学部 公共政策学科



プロフィール

熊本大大学院社会文化科学研究科博士課程後期修了。米カリフォルニア州立大研究員、熊本大院先導機構特任助教を歴任。担当科目は「地方政治学」。佐世保市出身

いしだ 石田 さとし 聖 講師 (33)

家対策、商店街の活性化といった地域の諸課題に対し、完璧な答えが出にくい複雑な時代になっている」との現状認識がある。

米大学への留学経験を通して、公共政策としての「協働」に注目している。

地域の問題を解決する人材には、官民を問わずどういうスキルが求められるのか。例えば住民と行政がもめたとき、第三者の中間支援組織が合意形成に向けてどう関与すべきなのか。米国では既に学問体系があり、運営面で

も組織化された事例があるという。

日本の地域社会でも、同様の取り組みについて研究と教育を進める。

「世代、利害や価値観の違う人たちとコミュニケーションを図ることが協働の第一歩」。前職の熊本大では学生や市民らが新聞を読んで時事問題などで意見を交わす「しんぶんカフェ」の運営にも関わり、足元の協働を実践してきた。

【随時掲載】

県立大学

県内生は入学科が優遇されます。

0956
(47)
5856